



何も無い水面に人が歩いているような風景が生まれる



足下は水中が見え、遠くは鏡面反射で橋が消える

## 貯木の橋

かつて山が多い日本では、伐採した木材を川で下流へ流し、行き着く湖に貯木していた。これは物流を水流に頼っていたのだが、この過程を経て自然乾燥される木材は、高温蒸気乾燥では得られない良質な木材になった。本提案は、水中貯木装置であり、木と水とガラスをつなぐ古事の橋です。



木材による魚礁



貯木装置であり、魚礁となるこの橋はどこにも存在しない親水空間となる

### 水中乾燥



機械乾燥では含水率は一気に下がるが、木の繊維が傷んだり内部割れしたりという問題が起きる。自然乾燥では、外は乾いても中の水分が抜けにくい。清流中に木材を浸けておくことによって、木の中の不純物を浸透圧で押し出し、良質な木材を作る事ができる。伊勢神宮は式年遷宮の際にこの乾燥方法で作られた木材で造替される。

### 風景に消えるガラス



「見えないガラス」を使う事によって人が何も無い水の上を歩くという、不思議で神秘的な光景を作り出す。

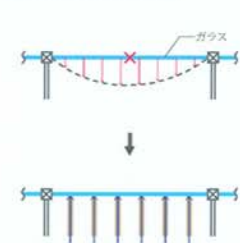
### 間伐材による魚礁



近年、間伐材の利用方法として、木の魚礁が注目されている。鳥取県出雲市にある神西湖などで行われている。

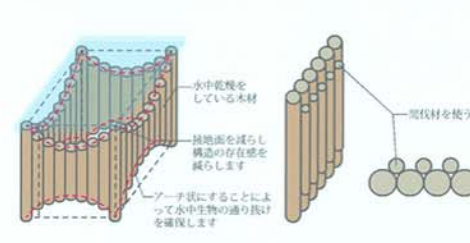
### diagram

#### 貯木と浮力による構造



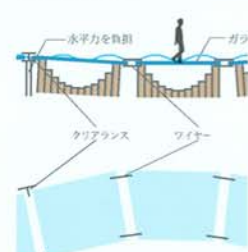
木の浮力によって鉛直方向の応力に対応する。これによって長いスパンを確保します。

#### 木の組み方



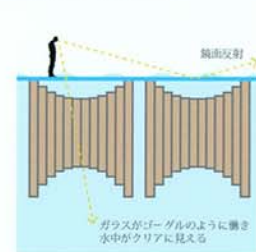
上図のような木を束ねる組み方を提案します。ガラスへの接地面を減らし、面への構造を目立たなくします。また、「束ねる」という構造によって間伐材のような小径木の利用を促します。材の長さの操作で水中生物の通り抜けを作ります。

#### ガラスの吊り橋



ガラスの接合にクリアランスを作り、ガラス同士はワイヤーでゆるやかに繋げることによって、浮遊感を生み出します。

#### 消える橋、見える水中



床にガラスを使い、構造体を隠した事によって、遠くのガラス面が鏡面反射によって消失します。